

# シンポジウム 人類の持続的発展を考える ホモ・サピエンスの未来

現在、AIやデータ科学、それを基盤としたIoTやロボット技術開発を、国の政策として推し進めようとする動きが盛んである。深層学習技術の急激な発展は膨大なデータの取り扱いを可能とし、その適応範囲はヒトの心的機能や行動、社会の予測的理解にまで及ぶとの見方もある。人類が経験したことのない未曾有の環境変化に、今を生きる私たちはどのように向き合い、人類の持続的な発展を目指していくべきなのだろうか。

本シンポジウムでは、現代最高の知の巨人たちとの対話を通じて人類の未来を思索することの重要性を訴え続けるサイエンスライター 吉成真由美氏をお招きし、人類の持続的発展に向けた課題についてご講演いただく。また、シンポジウムの後半には、人文社会科学、生物学、情報科学分野など分野を超えた研究者が集い、人類の持続的発展に向けて学術が新たに担うべき課題、具体的役割について対話する。



吉成 真由美 山極 寿一 鈴木 晶子 國吉 康夫

## 2019.03.15 金 13:00-16:20

### 京都大学 国際科学イノベーション棟 5F シンポジウムホール

13:00 開会挨拶

13:10-14:30 講演 吉成 真由美 氏「人類の未来 - 嘘と孤独とテクノロジー」

14:30-14:45 休憩

14:45-16:15 対論「ホモ・サピエンスの未来」

登壇者(敬称略):

吉成 真由美(サイエンスライター)

山極 寿一(京都大学 総長・自然人類学)

鈴木 晶子(京都大学大学院教育学研究科 教授・教育哲学)

國吉 康夫(東京大学大学院情報理工学系研究科 教授・知能情報学)

16:15 閉会挨拶

司会進行: 明和 政子(京都大学大学院教育学研究科 教授・認知科学)



主催: 文部科学省科学研究費補助金(基盤A)『身体的表象から自他分離表象にいたる発達プロセスの解明(代表: 明和 政子)』

共催: 京都大学学際融合教育研究推進センター 人社未来発信ユニット(ユニット長: 出口 康夫)

科研費  
KAKENHI